

# 街場の就活論 vol.18

～新卒採用とキャリア教育に関するハナシ～

だん あそぶ  
団 遊

## 長期インターンシップが日本で増えたワケ

この原稿の締切日翌日、8月26日から、ぼくが代表をつとめるアソブロック株式会社にインターンがやって来る。大学4年生の彼女のインターン実習期間は半年間。つまり、卒業までの半年間を、アソブロックで社員同様に勤務することになる。この話を人にすると、同世代の人からは「そんなに長く！」と驚かれる。ところが今時の大学生にとって、半年のインターンはさほど珍しいことではない。中には1年間というケースもある。もちろん、うちに来る彼女の場合、卒業要件となる単位をこの時期にすべて取得できていたから来られるわけであるが、本稿では、なぜ最近長期インターンが増えつつあるのか？ について思うところを書いてみようと思う。

### 想定される理由

- 1: 中小企業が新卒学生採用の手段として活用
- 2: インターンシップ体験での単位認定が進む
- 3: 大学休学費用の下落
- 4: 海外インターンシップの盛り上がり

理由として挙げられるのは、このあたりではないだろうか。

### 1: 中小企業が新卒学生採用の手段として活用

新卒採用の市場は、売り手市場化傾向が強まっている。この動きに伴い、中小企業は採りたい学生が採れなくなっている。内定辞退率も上昇気味。中小企業としては、ひとりでも多くの学生と出会いたい。その手段としてインターンシップは有益であるが、2週間以内のインターンシップは学生の青田買い（つばつけ）目的で大手もこぞって実施しているため、同じようなインターンシップ枠を用意しても応募が来ない。そこで、差別化して自社を知ってもらうための手段として長期インターンシップを採用する。実際の業務を通じて企業理解を深めてもらい、コミュニケーションしていこうという目論見だ。

### 2: インターンシップ体験での単位認定が進む

学校によって認定単位数は違うが、ほとんどの大学でいまやインターンシップを単位付与する体験授業と位置づけている。学生においてはとても見えやすいメリットで、参加意欲を高めていることは間違いない。また、実習時間数で認定単位数が増減するケースがほとんどのため、長期インターンシップへの参加意欲も自ずと向上する。ただし、大学側も半年、1年間のインターンシップを基本と考えているわけではないので、1ヵ月をこえる

と、単位認定数はほとんど変わらない。

### 3: 大学休学費用の下落

お金の問題も、地味に大きいと思う。例えばぼくが大学生の頃（20年ほど前の話）は休学するにもそれなりのお金が必要だった。記憶では、年間学費の1/3程度かかったのではないだろうか？他大学でもそう変わらなかったと思う。ところがいまや休学に必要な費用は急激に下落した。例えば早稲田大学は50,000円/ Semester、立命館大学に至っては5,000円/ 半年だ（在籍料とよぶ）。もともと、徴収の理由が不明確なお金だとは思っているので、実態に即してきたということであろうが、これが学生の休学ハードルを下げている。つまり、1年間みっちり休学してインターンをして復学する、という選択肢が取りやすくなった。また、企業も明確な意思を持った休学は敬遠どころか、歓迎する姿勢なことも追い風だ。

### 4: 海外インターンシップの盛り上がり

最近の学生は、世の中のグローバル人材へのニーズを敏感に感じ取り（グローバル人材が何を指すのかは別の議論が必要だ）、学生時代からその資質を磨こうとすることが多い。その手段のひとつとして有益なのが海外でのインターンシップだ。そして、海外インターンシップには、日本のような1dayや1weekといったものは基本的でない。そのため、海外インターンシップに参加する場合は長期インターンが必然となる。

以上のような理由から、企業での長期インターンは、地味ながら着実に学生生活に組み込まれつつある。

文/ だん・あそぶ

「社会課題を創造的に解決する」をモットーに様々なプロジェクトを

手がける。元は雑誌の編集者。大学では「街場のキャリア論」と題して、インターンシップを軸（実習）にそれぞれの人生のビジョンを考えるキャリアの授業を展開している。